

1 授業実践において

(1)授業の上手い下手の違い

- ・読み上げるだけではなく、説明が口頭で入っている
- ・引き込まれるかどうか、話がつまらないか
- ・堂々としている、余裕がある、話し方
- ・独り言が多い話し方
- ・面白い話し方をする先生とは、その特徴とは
- ・話のテンポがいい
- ・豆知識が多い、トリビア
- ・授業終わったときにあ那时的話面白かったなあ

(2)教えるコツとは

・質 問 ≠ **発 問** →なぜ? どうして? を問いかける →授業のメイン!

↓

+

↓

どのように? どうやって解いたか? どうやって見つけたの?

↓

課題解決、課題発見の際に力となる

↓

知っているかどうか?

知識を持っているかどうか?

↓

復習場面で教師が生徒に問いかける

新しい単元に入るときどの程度の知識を持っているかどうかを確かめる際に問いかける。

↓

①診断的評価となる

(3)問いの違い

Q:なぜ質問と発問を分けて、なぜ発問の方が授業において大切か?

クリティカル・シンキング (論理的思考) なぜ? を問いかけ続ける。答えが見つかるまで。

A:覚えさせる授業から、考えさせる授業になるから!

*発問に答えるように、丁寧にわかりやすい説明の仕方を準備しておく。

↓

生徒の段階を見極めて表していく。

↓

②形成的評価となる

(4)学習指導要領における指導と評価の一体化

質問－知識・技能の力をつけるもの・・・・・・・・・・知識理解

+

発問－思考力・判断力・表現力をつけるもの・・・・・・・・思考力、判断力、表現力

↓

③総括的評価 評価の3段階①②③を

スパイラルのように繰り返す

「学びのスパイラル」

2 授業の教材研究において

*質問・・・Q&A (答え)

*発問・・・I&R (応じる)

(例)

・生徒とのやりとり・・・Q&A で終わりがちとならずに、
質問を積み重ねた後、Q1+Q2+Q3→発問へ。

・Sさんの重さと質量に違いのミニ模擬授業

・発問「なぜ月に行くと重さは軽くなるの？」

・O君の循環器における血管の働きのミニ模擬授業

・発問「肺循環の前後で酸素量に違いがあるのはなぜ？」

「静脈しかない血管があるのはなぜ？」

などが考えられる。